

## OER Commons: Building Capacity for Open Education

Lisa Petrides

皆様、こんにちは。サンフランシスコからご挨拶させていただきます。このたび、皆様と共に参加することができ、光栄に存じます。近い将来、また皆様と直接お会いできることを願っております。

こんにちは、Lisa Petrides と申します。ISKME、Institute for the Study of Knowledge Management in Education の創設者で、CEO を務めております。本日は、OER コモンズ、オープン教育のための能力育成についてお話ししたいと思います。

ISKME は教育におけるアクセスと公平性の問題に対処するために 2002 年に設立された非政府組織で、学習および知識共有を参加型の公平かつオープンなものにする、教育者および生徒との連携・関与の必要性を理解する、研究を実践および情報提供方針に結びつける、オープンアクセス、オープンデータ、オープン教育に関する深い専門性を提供するという目標を掲げています。

ISKME は OER コモンズを立ち上げました。これは世界中で無料カリキュラム資源を共有するためのオープン教育に関するデジタルインフラで、最も広く利用され、広範囲にわたりアクセスできるインフラです。20 におよぶパートナーに加え、私たちはオープン教育資源に関する独自のライブラリを構築しており、私たちがインフラで支援している実践コミュニティハブの数は 60 以上におよびます。

では、共有・利用にあたってなぜライセンス教材なのか、なぜこれが重要なのかについて簡単にお話ししたいと思います。基本的にオープンなライセンス教材である OER は無料でアクセスできるもので、現在、多くの科目、複数の学年レベル、世界中のさまざまな言語にわたり提供されています。オープンライセンスによって、教育者は資源を適合、カスタマイズすることができ、障害を持っている学習者のためのアクセシビリティを向上させやすくなります。また、オープンライセンスによって、資源の編集やローカライズも可能となります。つまり、より幅広い状況や反応に合わせて資源を変更することができるのです。そして、これらの利点を生かすべく、教育機関・省庁は必要な策を講じて目標到達に向けた政策に投資し、それを支援していく必要があります。

ISKME では、次のような目標に向けて OER テクノロジーを開発しています。すべての人々にアクセスを提供すること、質の高い教材を作ること、デジタル学習スキルおよび ICT の必要性を強調すること、教材についての各地域の状況に対応すること。また、教育のプロ精神について深く真剣に考えること、つまり、コンテンツの評価、コンテンツへの基準適用、品質面でのコンテンツの精査を行うよう教育者に教え込むということです。

さて、ご覧になったことがある方もいるかもしれませんが、こちらが OER コモンズのサイト、[oercommons.org](http://oercommons.org) です。ISKME はオープン教育資源を掲載したこのデジタル公共ライブラリを 2007 年に初めて開設しましたので、今年で開設 15 周年を迎えようとしています。

私たちはオープンアクセスのデジタルライブラリを構築し、連携や教材作成を後押しし、長期的な視野でこの分野の能力を育成する方針を伝えています。

私たちのプロジェクトは世界中に広がっています。米国の K-12 や高等教育機関、それからユネスコ、ALECSO、米州機構、各国の教育省におよびます。

OER コモンズでは実践コミュニティの例をいくつか紹介しています。その 1 つが中東・北アフリカにおける汎アラブ OER コミュニティとしての役割を担っているアレクソです。ユネスコは「教師のための ICT コンピテンシー・フレームワーク」ハブを有しており、ここで私たちの実践コミュニティ同士が協力しながらコンテンツを監督、精査するとともに、各コミュニティが対応している地域向けにコンテンツの作成、適合、ローカライズを共に行っています。

OER アクセシビリティは特にここ 5 年か 10 年で ISKME のテクノロジーをめぐり非常に注目を集めているものです。というのも、公平性とアクセスの原則に基づいているからです。

OER アクセシビリティは学習者のための複数の選択肢を強調しています。つまり、教材は知覚できるものでなければならないということです。すべての生徒がコンテンツを少なくとも知覚することができるかどうか。操作可能なものか—すべての生徒がコンテンツのナビゲーションやインタラクションを行えるかどうか。理解できるものか—生徒がコンテンツを理解できるかどうか。堅固なものか—すべての生徒がコンテンツを表示させるのに使われているフォーマットとやりとりができるかどうか。

この一例として、私たちは STEM (科学、技術、工学、数学) 教職員グループと OER アクセシビリティについて取り組んでおり、実際に彼らのためのフレームワークを構築し、これは STEM オープン教育資源の編集者や作成者のための実用的なガイドとなっています。ぜひ実際にこのガイドをご覧いただければと思います。URL は後ほどお渡しするスライドに掲載しています。すべての生徒が STEM に特化したコンテンツ要素にアクセスし、それらを利用することができるかという疑問に対応しているガイドです。実際、STEM はオープン教育が見いだされている分野の 1 つに過ぎないのですが、これはアクセシビリティについて真剣に考えるガイドを作成した学問分野固有の教職員グループの好例です。

さて、OER 分野では、どのように公平かつ包括的な学習環境の整備について意図的に考えていくかということがこの 10 年間で非常に重要となってきました。つまり、資源が教室内の様々な学習者や教育者のニーズにどう対応できるか模索するということです。繰り返しになりますが、質の高いコンテンツへのアクセスの確保、アクセシビリティや様々なエンゲージメント方式の設計、状況に合わせたコンテンツの適合・ローカライズ、資源の分配および組織的もしくはシステムアプローチを支える方針の策定、つまり、ICT、オンライン学習、教職員や図書館員の研修、教育設計を活用していく必要があるということです。これらがオープン教育資源のすべての要素になるわけですが、私たちが教育と学習から成るこうした様々な要素すべてに真剣に取り組むまでは、実際に持続可能なモデルとはならないでしょう。

基本的に、テクノロジーだけでは十分ではありません。私たちは誰もが使いたいと思うような最高のテクノロジーを生み出せたらと何度も考えてきました。テクノロジーだけでは全く十分ではなく、この先ずっと教育テクノロジーを利用していく必要があると分かったのです。ISKME では、公平で包括的な学習環境の構築はより公正な社会に寄与すると考えているため、学習と知識共有を参加型で公平かつオープンなものにすることに取り組んでいます。こうした環境整備は誰もが知識と教育に平等にアクセスできる社会の実現に貢献するでしょう。

OER サステナビリティを真剣に捉えるならば、テクノロジーのみならず専門的な学習や教職員、図書館員、管理者の研修への投資を後押しする方針が必要となります。具体的には、実践コミュニティの構築が挙げられますが、連携やフィールド構築を通じて、各地域や世界中で教育者を促進、招集、育成し、活性化させるためにインフラを利用することも挙げられます。これが OER サステナビリティということになります。

ここで CARE フレームワークと呼ばれるものについても少しお話ししたいと思います。これはオープン教育資源のステュワードとはどういうものか掘り下げて考える場として、同僚と構築したもので、4つの領域に沿っています。1つめは英語で CARE、これは「貢献する」「起因する」「公開する」「権限を与える」を略したものです。どういう意味かと言いますと、まず「貢献」という観点から、OER ステュワードは OER の認知度、向上、配布を促すために、財政的貢献であれ現物による貢献であれ、こうした取組みに積極的に貢献するということです。「起因する」というのは、OER の作成や編集に従事する人たち全員の貢献が適切かつ明確に評価されるよう、目に見える形で帰属を実際に示すという意味です。自分のウェブサイト無料のコンテンツを掲載して「ご自由にお使いください」と謳っているケースがよくあるようです。しかし、コンテンツ作成者が「このコンテンツによる貢献を認めてください」ということを示す形で明確に使用許可を与えていなければ、私たちは必ずしも制作物を見て、また、この分野における他の作成者の制作物を基に教育資源のナレッジコモンズを実際に作るわけではありません。R は release 「公開する」を表しています。この場合、OER ステュワードは OER が特定のコース、もしくは OER が作成または提供されたプラットフォームの裏側で使用されるようにすることができるものだと考えています。私たちはこのサイロ化の問題の是正に真剣に取り掛かっていかなければなりません。米国以外にも欧州やアジアなど世界中に数多くのサイロ化された組織があり、ここ数年で素晴らしいコンソーシアムが立ち上げられてきました。実際、私は GLOBE というライブラリのコンソーシアムで初来日しました。10年以上前から OER のコンテンツを作成している組織です。私たちは未だにコンテンツがサイロ化されている問題を抱えており、ライブラリをまたいだコンテンツの共有ができていません。これが ISKME で私たちが取り組んでいることでして、来年中には、メタデータとオープン教育資源に関する新たなやり取りの方法を整備したいと考えており、これによって利用したい人誰もがコンテンツを公開、共有、編集できるようになります。そして、この CARE フレームワークの最後に来るのが「権限を与える」と

いうものです。ここで言いたいのは、OER スチュワードはすべてを受け入れる姿勢を持ち、あらゆる学習者の多様なニーズを満たすよう懸命に努めてほしいということです。例えば、OER の作成や導入において新たな意見や従来とは異なる意見の取り入れを後押しすることなどが挙げられます。また、オープン教育資源を利用している学習者に文化的に対応するコンテンツを作成するということでもあります。私は出発点として、オープン教育資源コミュニティの責任あるメンバーとはどういうものか真剣に考えるための手段としてこの CARE フレームワークを提供しています。これはただ単に教科書、つまり市販の教科書を無料の教科書に取り換えるということではありません。教育の専門家たちが日々生活している現場で教育と学習を実際に変革する能力を育成していくことを意図しているのです。

サンフランシスコから参加させていただきました。ご清聴ありがとうございました。今週開かれる予定のパネルディスカッションを楽しみにしております。ありがとうございました。